

第 61 号

令和6年3月1日発行
— 編集・発行 —
豊津地区まちづくり委員会
(情報発信専門部)

とよつだより

第十九回とよつかるた大会 活気で寒さ吹きとばせ



一月二十八日、恒例のかるた大会を開催しました。連日厳しい寒さに見舞われており、この日は幾分か緩んだ感がありましたが、暖房の効かない廊下ではブルっと身震いがする日でした。
昨年度は参加者がいなかった幼児の部に今年度はエントリーがあり、二年ぶりに全六部門で賑やかに実施できました。いつも賑やかな一般の部から今年も元気な笑い声が響き渡り、全体的に活気あふれる大会となりました。

各部門優勝者

幼児の部 君和田 充樹 くん

低学年の部 今泉 輝一 くん

中学年の部 山口 奏空 さん

高学年の部 浅間 柚羽 さん

一般の部 君和田 美希 さん

息子と一緒に練習して優勝できたので、うれしかった

V12
シニアの部 君和田 美智子 さん
出場できたことは元氣ということ。来年もよろしくお願ひします

ゆつくりかるた解説

豊津地区コミュニティプランの新規事業の一つである「かるたを使った地域の歴史や文化の伝承」を、かるた大会時に動画を使い行いました。かるたで詠まれている豊津の史跡や神社仏閣、自然景観、伝統事業などを、かるた大会時にいくつか紹介し、次の世代へ伝承していきます。

かるたの解説は、ネット時代に合わせ、youtubeでお馴染みの魔理沙(まりさ)と霊夢(れいむ)がゆつくりと説明してくれました。今回は最初と

いうことで、とよつかるた作成の経緯と「い」の札について説明しました。来年度以降残りの札を順次解説していきますので楽しみにしてください。

とよつかるたで豊津を知ろう!



第28回 とよつまつり

11月11・12日に「第28回とよつまつり」を開催しました。

コロナ禍により、令和2年度から規模を縮小し作品展示中心になっていましたが、今年度はコロナ前に近い内容で実施できました。

初日は多少肌寒かったものの、模擬店や遊びの広場、芸能発表などを目当てに多くの人出があり、活気が戻ってきました。

2日目は展示だけで、天気もあいにく雨ということもあり、前日に比べて客足は減りましたが、その分落ちついてじっくりと見学している人の姿が見られました。

「集う・学ぶ・むすぶ」を念頭に、公民館で活動する各種団体の発表と地域住民の交流が図れ、学びのある楽しい2日間となりました。



模擬店



芸能発表



バランスボール体験



遊びの広場



作品展



茨城県教育委員会・茨城新聞社主催の『第二十五回教育広報・NIEコンクール』で「とよつだより」が特別賞（茨城新聞茨城会長賞）に選出されました。

今号で第六十一号となる「とよつだより」ですが、今回の受賞はこれまでの積み重ねの賜物です。これまで「とよつだより」に関わってきた諸先輩方、そして毎号読んでいただく皆さんに感謝するとともに、今後の活動の励みとしたと思います。

特別賞

とよつだより特別賞受賞



URL

Facebook(フェイスブック) : <https://www.facebook.com/toyotsumachi>

QRコード Facebook



自然災害から身を守るために No.3

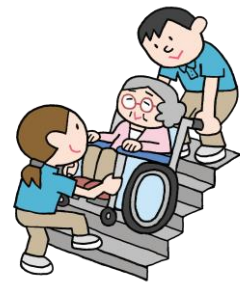
この度の能登半島地震で被災された方々に対し、心よりお見舞い申し上げます。

令和6年元旦に発生した能登半島を震源とする地震は、お正月気分を吹き飛ばす衝撃を日本国中に与えました。揺れによる建物の倒壊、そして津波、液状化現象など、平成23年3月に起きた東日本大震災に思いを重ねられた方も多かったのではないのでしょうか。

災害、特に地震は、いつ、どこで発生するかわかりません。そのようなことから、災害に対する普通の準備や心構えが大事だということをお知らせしました。



注意するのは、地震だけではなく、大雨や台風なども近年は激甚化・頻発化していることから、個人や家族単位で防災に関する知識を深め、そのような自然災害から自分たちの命を自分たちで守ることが必要になります。



しかし、自ら避難することが困難な方がいるのも事実です。特に、高齢や障がいを持つなど、災害時に支援が必要な方（避難行動要支援者）には、地域の皆さんが互いに協力して助け合う「共助」と、となり近所で助け合う「近助」による支援が求められます。地域のつながりが強いここ豊津地区においてこそ、「共助」と「近助」の支援体制が整備された、災害に強い地域、さらには誰もが安心して暮らせる地域でありたいものです。

ところで、皆さんは、右の項目の確認（準備）はできていますか？このほかにも必要なことはいろいろとありますが、気づいた時に少しずつでも準備をしてください。

- 地区内の危険箇所
- 災害時の避難場所と、そこまでの経路
- 近隣に住む避難活動要支援者
- 非常持出し品
- 家庭内の備蓄品（ローリングストック）

重要なポイントがもう1つ。正確で新しい情報を入手することです。災害時には停電も十分に想定されますので、ラジオや電池の準備も忘れないでください。ここ鹿嶋市には「エフエムかしま（76.7MHz）」という地域コミュニティFM局があります。東日本大

震災の際には、昼夜にわたってラジオから流れてくる気象情報や災害支援情報に恩恵を受けた方も多くいらっしゃったことでしょう。また、LINEや「鹿嶋市かなめーる」、鹿嶋市統合型アプリ「かしまナビ」でも、必要な情報を入手することができます。また、鹿嶋市では※1「VACAN（バカン）」と

いうサービスを利用し、避難所の開設状況や混雑状況を知ることでもできます。いざという時のために、平常時からこれらのサービスが利用できるような準備をお勧めします。

※1（鹿嶋市HP）<https://city.kashima.ibaraki.jp/soshiki/34/19736.html>

災害はいつ起きるかわかりません。身を守るため、ご自身の周りを再点検してみましょう。



現在も未来も住みたいまち「豊津」にしよう！

「豊津地区コミュニティプラン」をご存じでしょうか。

令和2年度に作成した計画で、これまでとよつだよりで何度か取り上げていますし、概要版を全戸配布しましたので、一度はご覧になったことがあるのではないのでしょうか。内容は、こうした豊津にしたいという将来像を描き、それを地域の皆さんで達成する手段をまとめたものです。

この計画が令和5年度で終了しますので、今年度次期計画を作成しました。作成に当たっては、計画の達成状況の把握、成果の評価をし、事業の見直し等を行っております。

特に事業の推進力強化を図るため、計画の実施主体を豊津まちづくり委員会に明確化し、計画名を「豊津地区まちづくり事業計画」（第2次豊津地区コミュニティプラン）としていきます。

まちづくり委員会の事業計画ですので、計画内容の検討、決定は、豊津地区内の五つの区の区長・副区長を加えたまちづくり委員会役員会が行いました。

前計画同様、鹿嶋市市民憲章に沿った【自然環境・景観】【歴史文化・教育】【健康・スポーツ】【福祉・防災】【自治・産業】別に将来像、活動方針、具体的に実施する事業を定めています。当計画では、この事業をまちづくり委員会事業として実施してまいります。

今回も計画概要版の全戸配布を行いますので、ご一読ください。



